

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300050		
法人名	株式会社 日本ケアリンク		
事業所名	せらび千葉稲毛		
所在地	千葉市稲毛区宮野木町2125-7		
自己評価作成日	令和1年10月12日	評価結果市町村受理日	令和2年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和1年11月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>季節に合わせたイベントを行い、利用者様が楽しめるような取組を行っています。地域との関わりを大切に、イベントのお誘いや参加を心がけています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>法人内には様々な委員会があり、定期的に会議を行ってサービスの向上に繋がるよう取り組んでいる。ホームの職員も何らかの委員会に所属し、運営に参加している。研修体制も充実しており、個人別にeラーニングによる勉強や本社集合研修、ホーム内研修などを受講している。また、毎月のフロア会議には夜勤者以外は全職員が参加しており、意見も多く出て有意義な話し合いになっている。職員間のコミュニケーションも良好で、分からないことは聞きやすい環境である。利用者も落ち着いて過ごしており、穏やかに生活している様子が見えてきた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年間事業計画に基づき実践している各フロアごとに目標を定め共有している	理念は朝礼時に唱和している。管理者は支援に迷った時には理念に立ち返って考えるように伝えている。ホームでは毎年目標を掲げており、今年度は「施設での災害、緊急時の対応」として、実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会へイベントのお誘いや、自治会の行事に関われるような関係作りに努めている	自治会に加入して地域の情報収集に努めるとともに、ホームの夏祭りを案内して参加を呼び掛けている。また、年2回近隣保育園の園児が来訪しており、芋煮会などで利用者と交流している。散歩時には挨拶をし、ボランティアを受け入れるなど、地域との関係づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ブログを発信し、認知症の方への理解をいただいている。地域交流の際も利用者に関われるようにしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方、あんしんケアセンター、学校長、同業者を呼び運営推進会議を行っている。運営状況を報告し参加者から意見を頂けるように努めている	運営推進会議は併設の小規模多機能施設と合同で2か月に一度開催している。毎回多方面からの参加を得て、参加者からそれぞれの立場でコメントをもらったり、専門的立場から講師をしてもらうこともある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運送推進会議を活かし事業所の運営状況や、事例発表を行い関係を築いている	ホームは市のグループホーム連絡会に入っており、会議には管理者が参加している。連絡会では市の職員とも情報交換をしている。地域包括支援センターの職員は運営推進会議に参加しており、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会の設置や必須研修を行い、職員は正しく理解できている	身体拘束廃止委員会を設置し、2か月に1回話し合いをおこない、身体拘束をしないケアについて職員に周知徹底を図っている。eラーニングでも学習する機会を設けている。また、年2回虐待の芽チェックリストで、日頃の言動をふりかえっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	必須研修に虐待防止の項目がある。虐待に至らないようにチェックシートで振り返りを行う機会を作り、アザの発見時は報告書の記入をおこなっている		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必須研修の項目にあるが、制度について理解はできていない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては基本、管理者、計画作成担当が行っている為、契約内容がどのようなものか把握していないスタッフもいる		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当者会議を開き、意見を取り入れている。ご家族から要望や意見があった場合は記録に残し上長への報告も行っている	家族の要望や意見は面会時や運営推進会議、担当者会議などで聞いている。聞き取った事項は相談記録シートに記入し、職員間で話し合い対応するようにしている。また、年1回ホームに対する満足度調査を行い、意見を吸い上げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議でスタッフから意見を聞く機会を設けている。フロア内で解決できない場合はリーダー会議で話し合いをしている	毎月1回フロア毎に職員会議を開催している。管理者は意見を出しやすい環境作りに努めており、多くの意見が出ている。また、会議以外でも日中できるだけ全職員とコミュニケーションを取るよう心がけ、働きやすい職場作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事評価制度により職員の意識確認を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に合わせた研修を促し機会を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一般職員の関わりは少ない。管理者、計画作成担当者は参加の機会がある		

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人や関係者からできるだけ情報を収集し、安心していただけるように心がけている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の心配事が解決できるように支援方法の提案をし良好な関係作りを行っている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何が出来るのかをご本人、ご家族と共有しながら必要な支援を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で出来ることはお願いをし、尊重している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の心情を聞き入れながら、協力し合えるように提案させていただいている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来所の際はゆっくり過ごせるように配慮している	家族の面会や利用者の知り合いの来訪がある。また、手紙の支援や電話の取次ぎなど、馴染みの関係継続に努めている。編み物が趣味の利用者にはいつでも編み物が出来るように支援するなど、これまでやってきたことを継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員同士が情報を共有し、関わり合えるような支援方法を検討している		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望に応じて対応している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	得た情報からご本人に合わせた支援をしている	利用者本人や家族、在宅時のケアマネジャーからの情報などを集め、全社協方式のアセスメントシートを作成している。個別の生活リズムを大切に考え、起床時間、趣味活動等、自宅での様子をしっかりと聞き取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご家族から情報を得ており、ご本人からも聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の記入により情報の共有をしカンファレンスを行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	課題解決のために、関係者には随時意見を求め介護計画に繋げている	カンファレンスで情報共有や意見交換をおこなっている。また往診の医師やマッサージ師、家族等、関係する様々な人から意見を聞き、反映している。チーム支援を行うことで、利用者が穏やかになった事例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録から情報の共有は出来ている。 日々変化があればその都度対応している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	多職種とも連携し、利用者に合わせて支援ができるように提案している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	十分にはできていないが、安全な生活が送れるようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の状況を把握し、訪問診療、訪問看護により適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療の医師、看護師、歯科医師などが定期的にホームを訪れ、利用者の健康管理をしている。訪問マッサージなどの利用もある。提携以外の医院への受診は、原則的に家族に対応依頼をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護に来て頂き、相談できるような体制になっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会を行い担当医や看護師から情報を得ている リーダー、計画作成担当者が中心な為スタッフが実際関わることは少ない		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族、医療職と共に方針を共有している	日常的な医療行為が無い場合は、ホームで看取りをおこなうことができる。終末期の判断は訪問診療の医師がおこなっており、家族と話し合い、同意の上で看取りのケアに入っている。看取りは、訪問診療の医師、看護師、家族等と密に連携を取りながら進めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一次救命処置が行えるように受講を進めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を実施している。事業所内での研修項目に取り入れている	火災想定避難訓練を年2回実施している。一方で、市の消防署は避難訓練に立ち会わない傾向にあり、書面での情報交換に留まっている。また法人全体で作成した非常災害時対策はなく、ホーム個々に任されている状況である。	想定外の自然災害が発生している昨今の状況を受け、より万全な災害時体制構築が望まれる。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のペースに合わせた対応を心がけている。研修の実施によりスタッフが意識することが出来ている	接遇・マナーについて法人がeラーニング研修を実施している。身体拘束廃止委員会を設置し、権利擁護等も含めて話し合いがこなわれている。年2回程度、不定期に虐待の芽チェックシートを配布して、日頃の支援をふりかえっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者を抑制せず、自己決定できるようにできる限り工夫をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人を尊重し、できる範囲で行っている。その日の暮らしに合う内容でコミュニケーションを取っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	常に清潔を心がけ、その人の好みに合わせた支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	イベント食やお誕生日で楽しめるような機会を作っている。 利用者が日々関われるように取組も行っている	普段の食事は調理済みのものを使用しているが、イベントとして出張握りずしやバイキング、流しそうめんなど、食事を楽しめるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量を記録に残している。 個々に合わせた食事形態に変えて提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	能力の把握を意識しながら、ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のADLや排泄パターンを把握し支援を行っている	利用者個々の意向や排泄リズムに合わせた支援がおこなわれている。自然な排便を促すため、ヨーグルトを出したりマッサージを取り入れるなど、工夫しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬だけに頼らず、食事や水分量を把握し自然な状態で促せるようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1人ひとりの希望には添えていないが、気持ちよく入浴していただけるようにしている	家庭的な個浴槽で職員の見守りのもと、入浴している。概ね週2回、午後の時間帯に支援が行われ、自立している利用者については、希望に応じて夕方入浴する人もいる。入浴をしたくないという場合は、声かけに工夫しながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援できている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療との連携を図りながらその都度確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベントの実施や、楽しめる機会をつくり支援を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援は行えていないが、家族の協力により外出できる方もいる	気候の良い時期は、介護職員の人数の多い時間帯に、近隣のコンビニエンスストアや公園に出かけている。春のお花見は、できるだけ皆が出かけられるよう工夫したり、ホームの庭で外気浴をすることもあるが、マンパワとの兼合いもあり、外出回数はあまり多くない現状である。	利用者の重度化や、介護職員配置の変更などを受け、日常的な外出は厳しい現状にある。ボランティアの活用なども視野に入れ、引き続き方法を検討していくことが期待される。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った際はご自分で使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人と家族の希望によりやり取りができるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾りをご利用者と作っている。 温度、光、明るさには配慮し、居心地の良い環境になるようにしている	空気清浄に努めており、臭いの無さ、空気のきれいさは、家族からも評価が高い。リビングは明るく、見やすい時計、手作りの暦、季節の歌などが掲示され、認知症の利用者に配慮した装飾と思われる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの置き方を工夫したり、座席も希望を聞きながら居場所を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は使い慣れた物を持ってきて頂いたり、自由に過ごせるようにしている。 安心して使って頂けるよう整理整頓を行っている	居室にはあらかじめベッドが配置されており、それ以外は馴染みの家具や好みの品を持ち込んで、それぞれ居心地がよさそうな居室になっている。リネン交換日に合わせて居室清掃をおこない、室温にも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人が自立した生活を送ることができるように安全な環境作りに努めている		